“平壌宣言は関係改善の里程標”／金丸信吾さんが講演

【朝鮮新報から抜粋】

金丸信元副首相は 1990 年 9 月、自由民主党と日本社会党の合同訪朝団の自民党代表として初訪朝し、朝鮮労働党との間で「朝・日関係に関する朝鮮労働党、日本の自由民主党、日本社会党の共同宣言」（三党共同宣言）を発表。金丸信吾さんは金丸元副首相の秘書として同行した。

金日成主席は、妙香山の招待所で代表団と面談。妙香山では主席と金丸元副首相の単独会談が 3 回にわたり行われた。会談の席上、日本の過去の行いについて謝罪した金丸元副首相は、主席から朝・日国交正常化交渉の開始に関する提案を受けた。

後の 9 月 28 日に発表された三党共同宣言では、三党が朝・日間に存在する非正常な状態を解消しなければならないということで見解を同じくし、国交樹立の実現と懸案問題解決のための交渉を開始するようにそれぞれの政府に勧告することで合意した。

91～92 年の間には 8 回の朝・日政府間交渉が行われ、金丸信吾さん自身も交渉のために 10 回訪朝した。そのうち 7 回は主席と単独での面談だった。「外交交渉ということもあり、当時のプレッシャーは相当なものだった。主席の印象は、朝鮮の人々が首領と敬愛を込めて言うように、日本人の私からみても偉大な方だとひしひしと感じた」。

92 年には、金正日総書記と初の面談も行われた。「あるとき主席が若い人同士が話すのもいいとおっしゃり、案内された部屋のドアを開けると金正日総書記がいらっしゃった。とても頭の回転が速い方だなというのが第一印象。私が政治的な質問を振っても、それは主席とお話しくださいと政治的な話には一切答えず、分をわきまえた方だと感じた」と振り返る。

その後、国交正常化交渉は中断を余儀なくされた。金丸元副首相も 92 年 10 月に議員辞職。94 年には主席が逝去した。「あと 5 年、この 2 人が政治の表舞台にいたら、日朝関係は現在の状況とは全く違っていたのではと今でも思う」（金丸さん）

民間外交に力を注ぎ

10 年の時を経て、金丸信吾さんが再び訪朝したのは 2002 年 5 月。

「三党共同宣言採択の際に、朝鮮側の事務方を務めた金養建氏（後に朝鮮労働党書記）からの招待だった。日朝国交正常化のために金丸元副首相の息子であるあなたにも協力をお願いしたいという内容の話を伺った」

しかし、同年の朝・日平壌宣言発表後、日本の世論は拉致一色に。金丸さんは、父の最後の仕事であった日朝国交正常化をやり遂げたいという思いから、度々訪朝団を組織し、日朝の民間外交に力を注いだ。昨年には、故金丸信副首相生誕 105 周年に際した山梨訪朝団（61 人）が訪朝。今年も、三党共同宣言発表 30 周年に際した訪朝団を予定していたが新型コロナウイルスの影響により霧散となった。

「昨年、安倍首相が無条件の日朝会談について言及していたが、訪朝の際、宋日昊大使に聞くと、日本政府や外務省のアクションはなく、パフォーマンスに過ぎないと一蹴していた。また大使は、平壌宣言こそが両国の関係改善のための里程標であると強調していた」

「民間外交には限界がある。政治家が日朝国交正常化への地ならしをしなくてはいけない」と金丸信吾さん。「国交正常化こそが日朝の懸案事項を解決する一番の近道であると信じ、活動してきた」としながら、「安倍首相は拉致問題の解決なくして国交正常化もなしという『安倍３原則』を捨て、圧力一辺倒の政策を撤回し、日朝平壌宣言の原点に戻って交渉をやりなおすべきだ。外交の基本は信頼である」と力を込めた。